

国立ハンセン病療養所 医師募集



厚生労働省 国立ハンセン療養所医師募集ホームページ

またはキーワード検索で

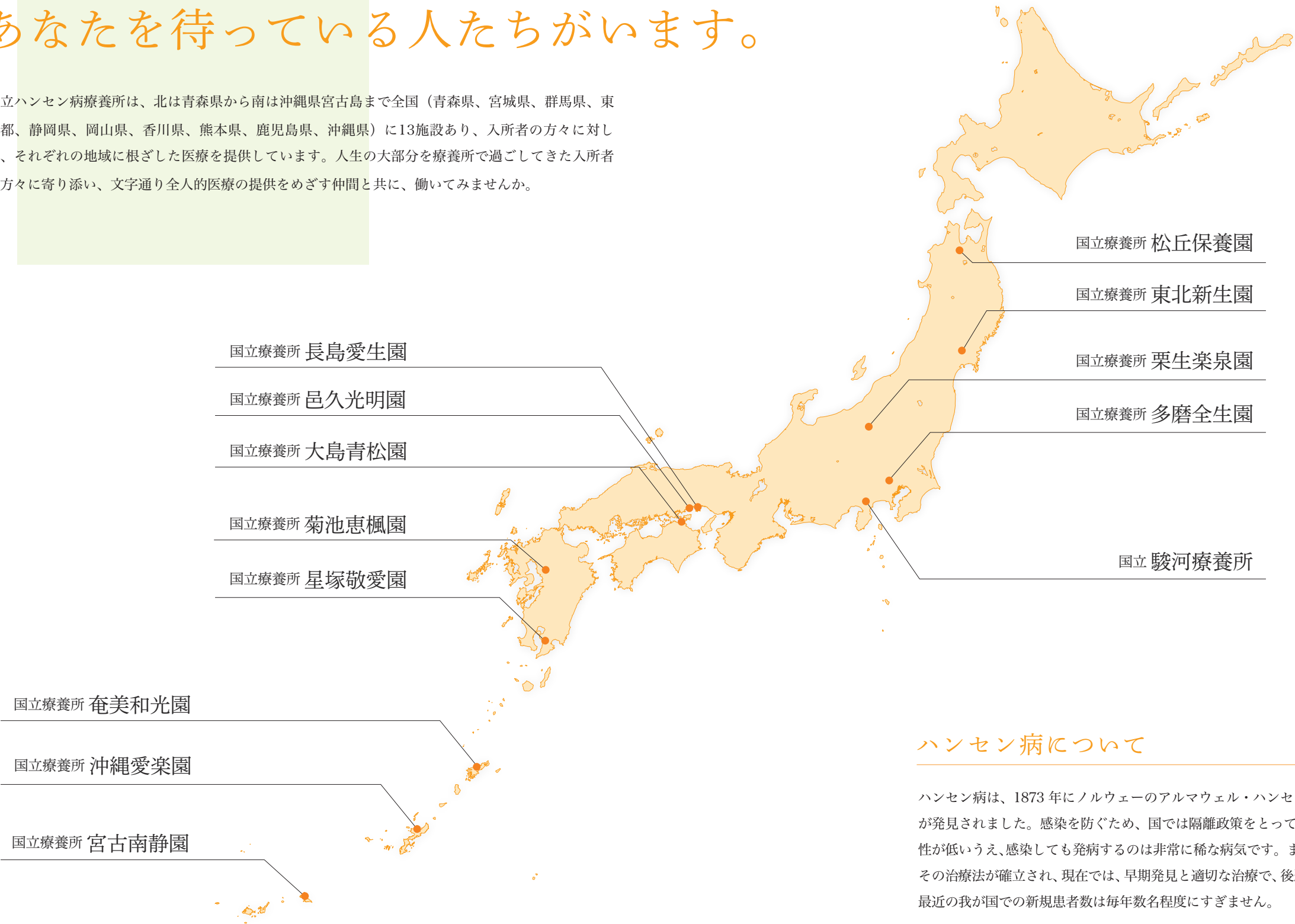


厚生労働省 医政局医療経営支援課 国立ハンセン病療養所 対策室
〒100-8916 東京都千代田区霞ヶ関 1-2-2 tel 03-5253-1111 (内線 2605,4412)



全国13ヶ所の 国立ハンセン病療養所で あなたを待っている人たちがいます。

国立ハンセン病療養所は、北は青森県から南は沖縄県宮古島まで全国（青森県、宮城県、群馬県、東京都、静岡県、岡山県、香川県、熊本県、鹿児島県、沖縄県）に13施設あり、入所者の方々に對して、それぞれの地域に根ざした医療を提供しています。人生の大部分を療養所で過ごしてきた入所者の方々に寄り添い、文字通り全人的医療の提供をめざす仲間と共に、働いてみませんか。



contents

メッセージ / ハンセン病療養所 map	1
国立ハンセン病療養所の医師	3
国立ハンセン病療養所で働く	5
医師の声	
長島愛生園 山本 典良	7
奄美和光園 馬場 まゆみ	8
栗生楽泉園 坂本 浩之助	9
沖縄愛楽園 野村 謙	10
施設紹介	
松丘保養園（青森）/ 東北新生園（宮城）	11
栗生楽泉園（群馬）/ 多磨全生園（東京）	12
駿河療養所（静岡）/ 長島愛生園（岡山）	13
邑久光明園（岡山）/ 大島青松園（香川）	14
菊池恵楓園（熊本）/ 奄美和光園（鹿児島）	15
星塚敬愛園（鹿児島）	16
沖縄愛楽園（沖縄）/ 宮古南静園（沖縄）	17
国立ハンセン病療養所 施設見学	18

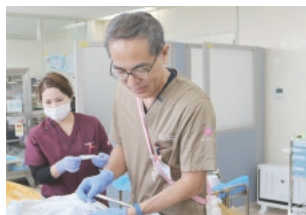
ハンセン病について

ハンセン病は、1873年にノルウェーのアルマウエル・ハンセン医師により、らい菌による細菌性感染症の一部であることが発見されました。感染を防ぐため、国では隔離政策をとってきましたが、らい菌は感染力が弱いことから、感染する可能性が低いうえ、感染しても発病するのは非常に稀な病気です。また、ハンセン病治療に有効な治療薬が開発されたことにより、その治療法が確立され、現在では、早期発見と適切な治療で、後遺症を残さずに治すことができるようになっています。なお、最近の我が国での新規患者数は毎年数名程度にすぎません。

国立ハンセン病療養所の医師

国立ハンセン病療養所（以下、「療養所」といいます）の入所者の方々は、ほとんどがハンセン病そのものは治癒しているものの、視覚障害や手足の神経障害等の後遺障害を有しています。また、入所者の高齢化が進んでおり、生活習慣病などの合併症を有する他、身体機能や視覚機能の低下が進んでいます。さらに、長期にわたる療養所生活を送っていることなど、歴史的・社会的な特殊性を有しています。そのため、療養所に求められているのは、プライマリケアやリハビリテーション機能の充実です。療養所内で対応できない専門的な医療を行う必要がある場合には、療養所外の医療機関と連携した委託治療を行っています。

療養所で提供される医療のほとんどが入所者の方々に対して行われていますが、近年、地域開放の観点から、地域住民の方々に対する外来を設けている施設もあります。療養所での診療はプライマリケアが主体で、勤務は概ね規則的となっており、研究などの時間をとりやすい特徴があります。



診療 ～ 1人ひとりとゆっくり向き合う ～

入所者の方々に対する診療は、療養所の医師として最も必要とされる業務です。外来診療と病棟回診がありますが、療養所ならではの診療内容もあります。

外来診療

各医師の専門の診療科にて、入所者の方々への外来診療があります。週2～3回担当することが多いですが、入所者以外の地域の方を対象とした外来を行っている療養所もあります。入所者だけを対象とした外来であれば、午前中で終了することが多いですが、地域の方も対象とした場合は、午後まで診療が続くこともあります。

病棟回診

入所者の方々は療養所内に居住しており、居室が病床になります。回診は入所者の方々の居住内にお邪魔することにもなります。居住している場所を回診するので、入所者の方々の健康状態を、生活の様子をふまえた総合的な評価・判断を行うことができます。また、療養所によって頻度は異なりますが、当直業務がある場合もあります。

入所者との交流 ～ 人生に寄り添う存在として ～

療養所では、入所者は、各居室で過ごすだけでなく、入所者同士の交流を目的として、カラオケやお花見などのイベントが行われています。そのようなイベントに医師も参加することで、入所者の健康状態を把握できるだけでなく、入所者とのコミュニケーションも図ることができ、信頼関係の構築につながります。普段の入所者の様子を知ることができるのが、療養所の医師の特徴でもあります。

委員会活動 ～ 国立ハンセン病療養所の一員として ～

療養所では、活動の質向上のために、様々な委員会活動を行っています。具体的には、感染対策委員会、医療安全対策委員会、ライフサポート委員会などです。各医師の専門分野に応じて、各委員会活動に参加いただき、療養所の活動の質向上に貢献いただくことがあります。

研究活動 ～ 医師であるからこそ ～

診療以外にも、医師として研究活動を行うことができます。療養所内だけでなく、地域の大学院での研究も可能です。ハンセン病に関係する研究を行う場合には、国から研究費が支給される場合があります。療養所では、急性期の医療機関に比べて、研究に割ける時間が多いため、論文執筆や学会発表も行うことができます。



国立ハンセン病療養所で得られる「学び」

先進国ではハンセン病は過去の病気となり、教科書には文字が載るだけとなっています。しかし世界全体では新規患者数は年間17万人以上であり、まだまだ現在の病気です。そのような意味では、実際の症状や後遺症に接し、そして実際に回復者の声を聞くことは、医師として大きな財産になることでしょう。

ところで、「病気を診るのではなく人を診る」と私たちは教わりました。療養所では入所者一人ひとりの後遺症、生活様式、さらには歩まれてきた道や「思い」までも考えながら診療にあたります。すなわち全人的医療の実践こそが、療養所で得られる大きな学びなのです。

また、苦難の道を歩まれた入所者を通し、守られるべき人権、私たちが犯しやすい過ち、そして人生を生き抜く力についても学ぶことになるでしょう。

多磨全生園 園長 鵜飼克明



国立ハンセン病療養所で働く

全国の国立ハンセン病療養所は、自然豊かな環境の中にあります。国家公務員の医師として、各種制度や兼業などのサポートもあり、ワークライフバランスを意識した新しい働き方を探すことができます。

診療科・業務内容

入所者の方々は、ハンセン病の後遺症により、視覚障害や知覚・運動障害等を抱えながら生活をしており、平均年齢が88歳を超え、生活習慣病やがんなどの合併症や認知症、高齢期の特徴を抱えています。国立ハンセン病療養所の医師(日本国の医師免許を取得している者)は、そのような入所者の方々の診療をしています。

診療科 内科、外科、整形外科、皮膚科、眼科、精神科 等

施設紹介ページに掲載している診療科以外にも募集しています。



給与や勤務時間

国立ハンセン病療養所の医師は、国家公務員です。給与は、「一般職の職員の給与に関する法律」の医療職俸給表(一)を適用し、経験年数等を考慮の上で決定します。その他同法の規定による通勤手当や扶養手当などの諸手当が支給されます。

年収(見込)	約1,000万～1,800万円
勤務時間	8時30分～17時15分(1日あたり7時間45分の勤務) 原則、土曜日、日曜日及び祝日(年末年始)はお休みです。宿日直業務があります。
休暇	年次休暇、特別休暇(夏季休暇など)、病気休暇、介護休暇などがあります。
定年	67歳(令和7年4月現在) 国家公務員法の改正により、定年が2年に1歳ずつ引き上げとなり、令和13年4月の定年は70歳となります。例外的に、定年後3年間まで勤務延長することもできます。
福利厚生	厚生労働省第二共済組合に加入することになります。 組合員として出産時や災害時等に各種給付を受けることができます。 その他、組合員とその家族については、宿泊施設利用割引や引越割引などの様々な制度・事業を利用することができます。



兼業

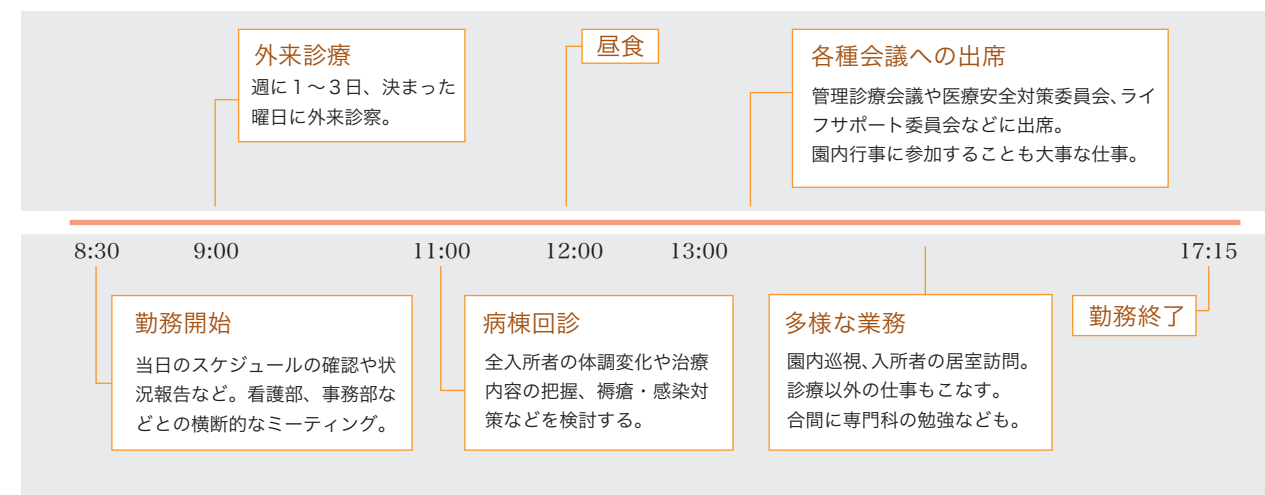
国立ハンセン病療養所の医師として働きながら、療養所以外の医療機関で診療することができます。病院、診療所、産業医を選任すべき事業場、精神保健指定医として職務を行う施設など診療技能の維持・向上を図りながら、地域医療に貢献することができます。

兼業 正規の勤務時間に報酬を得て、1週当たり19時間まで

勤務時間内に兼業をした場合は、その勤務しなかった時間分の給与が減額されます。



ある国立ハンセン病療養所医師の1日



ワークライフバランス

産前・産後休暇、育児休業、子の看護等休暇、介護休暇、早出・遅出勤務などのライフステージに配慮した各種制度の利用ができるため、私生活と仕事との両立がしやすくなっています。男性も育児等を取得して、育児や介護に関わる職員が増えています。また、国家公務員の身分を保有しながら研究ができる研究休職の制度もあります。

宿舍の提供 国立ハンセン病療養所の宿舍を希望する場合、無料で入居することが可能





長島愛生園

長島愛生園 園長
山本 典良 やまもと のりよし
1963 年岡山県生まれ
岡山大学医学部、同大学院医学研究科
博士課程卒業 医学博士

外科専門医、日本外科学会指導医、(臨床研修指導者養成課程講習会修了、プログラム責任者養成講習会修了、JATEC コース修了)

この選択肢とは何度も巡り会えない

1992年に呉共済病院の胸部心臓血管外科に勤めてから、この愛生園に来るまで、12カ所ほどの医療機関で勤務してきました。2014年、以前勤務していた国立病院岡山医療センターでの直属の上司であり長島愛生園の園長だった藤田邦雄先生から、声をかけていただきました。

外科医師の多くは60歳を過ぎたあたりで、心臓血管外科医なら55歳くらいでメスを置くのが普通です。私はそのとき51歳になろうとしていた頃。正直、大いに迷いました。愛生園に「行かない」と決めたら、もう二度とこの施設と関わり合うことはないだろう、何度も繰り返し悩むことのできる選択肢ではない、という考えがありました。またずっと国立の学校で学んできたので、国に恩返しをしたいと思う気持ちもありました。愛生園の副園長職を選んだのは、これだという大きな理由ではなく、いくつもの理由が重なった結果だったのだと、今は思っています。

打算のない「医療の原点」がここにはある

国立ハンセン病療養所は急性期の医療施設ではないため、忙しさが自分のキャリア構築につながるような感じはしないかもしれません。しかし私自身はこの施設には「医療の原点」があるのではないかと、感じています。

ここには、困っている人がいて、その人たちのためだけにつくられた施設です。何の打算も挟まず、純粋に入所者のための医療ができる。そういうスタンスで医療に携わる機会は、あまりないのではないかと思うからです。

高度な技術ではなく 心を磨ける場所

一方で、すべての病状に対して初診を行い、必要であれば専門機関を紹介することもあるので、総合家庭医という側面もあります。この入所者には診療を受ける場所を選ぶ選択肢がないという事実もあります。であれば、私たちもきちんと勉強しておかなくてはけません。比較的時間をつくることのできる職場なので、自分の勉強や研究に充てる時間をもつことができます。週に1回の研修日設定も可能なので、その日を岡山医療センターや大学病院での勤務にあてることもできます。急性期医療の現場から遠のかずにいられるのも愛生園の特徴でしょう。

医師が人間の心を磨くための場所と時間

外科医がメスを置いた後は、ふたつの道があると思います。ひとつは病院の管理者となる道。もうひとつは後進の育成に携わるといふ道です。私は、その真ん中の道を選んだといえるかもしれません。愛生園の管理者として、その責任を全うしようと思っていますし、一緒に働く医師やスタッフが成長するためなら、どんな協力も惜しみません。

若い人なら、長い医師生活の中の一時期を愛生園で過ごす、ということになっていいでしょう。ただ、この施設に来て後悔をする医師はいないと確信しています。こういう施設は、外から得られる「知識」よりも、中に入って働くことで得られる「知見」に価値があります。勤務することで、その人の人間性は広がるはず。その経験は種のように残るでしょう。ここは、医師としての高度な技術を磨く場所ではないかもしれませんが、人間の、そして心を磨く、そういう施設なのだと思います。このパンフレットを手にとったことが、医師としての選択肢が増えるきっかけになれば、と考えています。

山本医師のインタビューはホームページでも
ご覧いただけます



「南の地」への移住の夢と奄美和光園との出会い

長野県で生まれた私は、隣県である静岡の浜松医大を卒業し、関連病院での研修を経て皮膚科専門医を取得したのち、結婚しました。今は主人の希望で移住した奄美大島にある奄美和光園で勤務をしています。医員、医長、そして副園長となりました。

皮膚科を専門に決めたころから、少しずつ「患者さんに近いところで働きたい」と思うようになりました。また、将来的には南の方に移住したいとも思っていたので、夏休みのたびに「南の地」を旅行しては、住むところを探していました。奄美大島の風土や料理に接したとき、夫婦ともに馴染めそうだと直感しました。2010年の旅行の際に、奄美大島の中核病院の皮膚科医に相談すると、奄美和光園で募集していることを教わり、問い合わせたところ、翌日に園長と面談することになりました。とんとん拍子に話は進み、翌年の4月から勤務を始めることとなりました。

治療だけでなく、生きていくことのための医療を

生き方とその場所は、密接に繋がっていると思います。入所者の方にとって療養所は生活の場であり、終の棲家であり、後遺症などの治療を受ける場でもあります。ですから、効率的な治療よりも、「その人らしい生活を送るためのお手伝い」が重要だと強く感じています。この施設の目標は、穏やかに生きていくことであり、変わらない日常そのものです。ガイドラインに基づく効率的な治療を受け入れていただけないことに、もどかしさを感じることもあるかもしれません。しかし、一つひとつ解決しながら、自分なりの医療を見つけることは、大いに意義があると思います。

一方で、時代に乗り遅れないため、治療についての理解を深めるため、ハンセン病の啓発のため、理由は様々ですが、可能な限り学会発表や論文作成することを自分に課しています。また、認定試験を受けるようにもしています。奄美大島に来てから3つの資格を取得、知識の向上・維持にも努めています。

チーム医療を大切にした診療を目指す方へ

この施設での仕事で大切なことは、「チーム医療を大事にすること」です。最近では、いずれの医療現場でも言われていることですが、あえて強調いたします。職員数の少ない奄美和光園では、それぞれに高い専門性が求められま



奄美和光園

奄美和光園 園長 (インタビュー当時は副園長)
馬場 まゆみ ばば まゆみ
1963 年長野県生まれ
浜松医科大学医学部卒業

皮膚科専門医、フットケア指導士、弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター・摂食嚥下リハビリテーション
学会認定士

生きていく場所としての 奄美大島

す。しかし、リーダーたる医師が治療という専門性だけを追い求めてしまうと、うまくいきません。歴史も踏まえた入所者の背景、倫理観、宗教観を熟知しているのはスタッフです。当園の基本理念である「生命の尊厳と人権を守り、穏やかで心豊かな療養生活と、安全で安心できる医療の提供」のためには、スタッフの意見を尊重すること。それが求められるリーダーのあり方だと思います。

また、奄美和光園では皮膚科に限り地域の方の診察もしています。奄美大島には皮膚科医が少なく、病診連携における重要な医療資源という側面もあります。生活の場として、奄美大島という土地と切り離すことができない施設だといえます。

生きていく場所は、自分で決めることができる。そしてそこで送る日々は充実したものになる、私はそう思っています。

馬場医師のインタビューはホームページでも
ご覧いただけます





栗生楽泉園

栗生楽泉園 園長
坂本 浩之助 さかもと ひろのすけ
1960 年埼玉県生まれ
富山医科薬科大学医学部医学科卒業
医学博士（群馬大学）
群馬大学医学部客員教授
臨床研修指導医

入所者とともに 施設を運営していく

先輩の声かけから社会貢献の一つとしての決断

私は2015年に園長としてここ栗生楽泉園に着任し、新しい環境で働く「新人」の立場と、施設運営という「園長」の立場となりました。私は、富山医科薬科大学（現・富山大学）医学部を卒業した後、群馬大学病院で第二内科（現・臓器病態内科学）に入局し、専門は高血圧や心臓病など。群馬大学医学部附属病院総合診療部、高崎健康福祉大学看護学部の教授などを経て、群馬大学大学院医学教育センターの副センター長・准教授として働いてきました。園長就任の直接のきっかけは、前園長の定年に伴って後任を探していると、先輩から声をかけていただいたことです。ご縁があるなら社会貢献の一つとして引き受けよう、そう思い至りました。

私はこれまで医学教育に携わり、学生たちに伝えるべきことを整理し言語化する中で、「社会貢献・地域貢献」の重要性を強く感じるようになりました。県域での活動が基礎となる国立大学医局の医師だからこそ、社会性や地域性は重要となります。さらに言えば「社会に貢献できないのは少し恥ずかしいことだな」と感じていたのです。

自宅のある埼玉県深谷から草津までは、車で片道2時間半ほどかかるため、現在は月曜日の朝に来所して、平日は草津町のリゾートマンションに宿泊しています。金曜日は群馬大学病院で医学生の実習指導、指導医らとの情報交換をしています。

職員と入所者が車の両輪となって運営する施設です

学生たちに繰り返し指導してきたことは「医師と患者の良好な関係構築が重要」ということです。園長として着任してすぐ、スタッフと一緒に入所者全員の居室を訪問しました。これは看護部長の発案でした。みなさんととても温かく迎え入れてくださり、「園長が挨拶に来たのは初めてだよ」と喜んでくれました。誕生月には手書きのバースデーカードを渡したりもしています。

入所者の皆さんは、若い時期に筆舌に尽くせないご苦労をなさってきた方たちです。これまでの長い歴史の中で、職員たちと必ずしも円満ではなかった時期があったからこそ対立の構図を描かず、職員と入所者が車の両輪となって「施設を運営していく」が必要だと考えています。療養する側も働く側も、施設の存在意義を感じてもらいたい。そう思って仕事をしています。

閉じていく施設である一方、重要な教育資源の場所

先進国ではハンセン病は過去の病気となりました。そういう意味では、実際の症状・後遺症に接し、ハンセン病に携わることで、そして回復者の声を実際に聞けるということは、医師として大きな財産になると思います。開発途上国の医療を志している人であれば、ハンセン病は現在の病気ですからその価値はいうまでもありません。

患者の「気持ち」の理解は、診療する上で必要不可欠なこと。この施設で、一人の入所者に時間をかけて診察することは、医療面接のスキル向上につながることでしょう。

国立ハンセン病療養所とは、教育、研究、啓発、ボランティアなど、諸々の活動の前線でもあります。これから活躍してくれるであろう、若い人材の教育資源としても重要な場所なのだと確信しています。

坂本医師のインタビューはホームページでも
ご覧いただけます



医師にとって積極的な 選択肢となりうる施設

国立療養所は医師にとってまだ終わらない場所

国立療養所という施設は「まだ役目を終えていない」施設です。どの施設も入所者の高齢化などで、その役目を終えつつあることは確かです。しかし、そのときまではまだ数十年の時間があります。さらに実態を知れば、国立療養所が多く医師にとって、いかに成熟した職場であるかが分かんと思うのです。

現在、沖縄愛楽園には園長の私と副園長、歯科医師、そして内科医師の4名が常勤、9名の医師がローテーションで勤務し、大学院生も数年間のスパンで診療にあたっています。大学院生時代にこの施設で勤務をして、その後就職をすることとなった医師もいます。この医師は救命救急が専門で、現在もドクターヘリに搭乗しながら当施設でも勤務しています。

勤務する医師をサポートするシステムが成熟しているのも特徴です。私の場合は国立病院の臨床医として働きながら、この施設で勤務しつつ臨床例をまとめ、研究を進めることができました。専門の呼吸器外科以外に、8つの専門医の資格を得ました。医師のキャリア確立において、30～40代でこの施設を選ぶという選択肢は、とてもメリットのあることではないかと思います。

キャリアを積みながら人生の目的を見つける

この施設に来たのは大学医局人事でした。毎日の激務で身体が悲鳴をあげてきたタイミングでもあり、とりあえずは働いてみようか、となりました。勤務してみると勉強をする時間も取れ、一方で急性期医療からも遠ざかることもなく、自分にあった働き方なのかもしれないと思うようになりました。

入所者に対して、大変なご苦労をなさってきた特別な人たち、という頭でっかちな先入観がありました。でも、おじい、おばあの望みは普通に楽しく暮らしていくことであり、それは多くの人たちと何の違ひもありません。だったら、私にできることは、最後の最後まで一緒に健やかに暮



沖縄愛楽園

沖縄愛楽園 園長
野村 謙 のむらけん
1961 年沖縄県生まれ
琉球大学医学部医学科、同大学医学部医学科
大学院卒業 医学博士
日本外科学会認定医／日本外科学会認定
登録医／日本消化器外科学会認定医／日
本胸外科学会認定医／消化器内視鏡専
門医／乳腺認定医

らしていけるような環境をつくることなのだ、と思うようになったのです。

理想的な地域医療のモデルケース

住人の入れ替わることのないこの施設で、見知った人たちが笑顔のまま最期を迎えてくれるようにするにはどうしたらいいのか。最善の最期はどうかたちなのかを知りたくて「人工呼吸はしますか」などと聞くと、治療をしてくれないのかと叱られたこともあり。しかしじっくりと話をする機会を増やし、また穏やかに亡くなっていく人を見送るような機会が増えてくると、みなさんの意識も少しずつ変わってきました。キリスト教徒の入所者たちに見守られて、賛美歌が歌われるなかで亡くなった方を見て、同席したおばあが「先生、よかったねえ、怖くないねえ。あんなふうに逝けるならいいね」と言ってくれました。

沖縄愛楽園は地域包括ケアという国が掲げる目標に対しても、継続的なアプローチがなされていると思います。医師にとって愛楽園での勤務は、近未来の理想的な地域医療を模索する一手になるのではないかと、そう思っています。

野村医師のインタビューはホームページでも
ご覧いただけます



東北

国立療養所

松丘保養園 青森



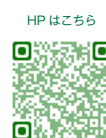
当園は明治42年に第二区道県立・北部保養院として開設、昭和16年に国立療養所松丘保養園と改称し、115年間ハンセン病医療を担ってきました。最北端の国立ハンセン病療養所で、敷地の3割は野生の動物が生息する豊かな森があり、周囲は閑静な住宅街です。東北新幹線の新青森駅まで車で5分、東北自動車道の青森ICまで約3km、青森空港まで約14kmと交通事情は良好です。令和7年4月現在の入所者は40名（平均89.6歳）で、ハンセン病の後遺症に加え加齢による合併症があり、総合診療科的医療が中心です。弘前大学医学部各科等より非常勤医師の派遣があり、園内で完結できない医療は外部の病院に委託しています。週1回、入所者1人に対して多職種で合同カンファレンスを行い、入所者に寄り添った支援を行っています。ワークライフバランスを見直し、ゆったりとした環境の中で一緒に働きませんか？

所在地 青森県青森市大字石江字平山 19
電話番号 017-788-0145
診療科目 内科、外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科



国立療養所

東北新生園 宮城



当園は、宮城県北部に位置し、県都仙台の北方約60kmにあります。近くには白鳥の飛来で有名な「伊豆沼」、西北には「秀峰栗駒山」を望み、約35万平方メートルの敷地は丘あり池ありで四季の変化に富み、自然に恵まれた風光明媚で閑静な場所です。入所者は故郷を離れて、ハンセン病後遺症および高齢化に伴う各種合併症に対して長期療養生活を送っており、当園は療養の場であるとともに、生活の場ともなっています。入所者と親しくなると、いろいろな過去の事も話してもらえることもあり、人生の師のように思える入所者も何人も出来ました。これはこれまでの医師生活の中で大きな財産と考えています。入所者の日常生活の支援だけでなく、どのように年を重ね、どのような医療を受けたいか入所者一人ひとりの意向を尊重し意思決定を支援しています。

所在地 宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢 1
電話番号 0228-38-2121
診療科目 内科、外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科



関東

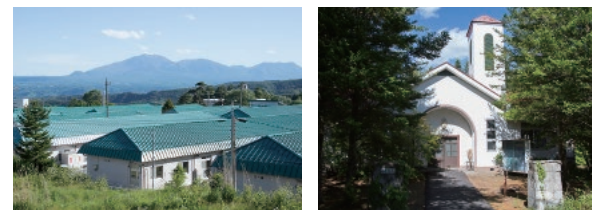
国立療養所

栗生楽泉園 群馬



当園のある群馬県の草津温泉は、古くから万病に効果のある薬湯として有名であったことからハンセン病を病む湯治客による集落が形成されていたため、昭和6年に全国2番目の国立療養所として当園の設置が決定されました。当園では高齢化の進む入所者が最期までその人らしく生きられるように全職員が一丸となって入所者の療養生活を支えています。診療は時間に追われることなく、じっくりと入所者一人ひとりと向き合うことができ、ワークライフバランスを重視する医師にも最適の職場です。園内には草津温泉から直接お湯を引いた源泉掛け流し風呂があります。冬には草津温泉スキー場でウィンタースポーツを楽しめます。また、地元住民と入所者との交流を促進するため園内行事の開催や、ハンセン病問題について理解を深めてもらうために、「栗生楽泉園歴史館」と「重監房資料館」の見学も受け付けております。あなたも魅力あふれる栗生楽泉園で私たちと一緒に働いてみませんか。

所在地 群馬県吾妻郡草津町大字草津乙 647
電話番号 0279-88-3030
診療科目 内科、外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科



国立療養所

多磨全生園 東京



当園は、明治42年に発足したハンセン病の療養施設です。都内唯一の国立ハンセン病療養所として、東村山市の東北端に位置しており、周辺は武蔵野の雑木林の面影を残した緑地の多い静かな自然環境です。約36万m²の広大な敷地の中には過去にハンセン病に感染し、現在は治癒していても、ハンセン病によるさまざまな障害や、国の施策により被った社会的な障害により、園外で生活困難な方々が療養をされています。急性期医療は近隣の医療機関の助けを借りながら、入所者の一人ひとりが心の安らぎを得て、生きている事の充実感を満たせる様に、医療の提供をしています。全生園の中では時間が比較的ゆっくり流れている様に感じられます。子育て中や家族介護中の方でもキャリアを中断せずに継続させてその後の飛躍に備えるには魅力的な環境と考えています。興味を持っていただいた方にはぜひご連絡いただき、多磨全生園の見学とともに隣接の国立ハンセン病資料館にも足を運んでいただければと思います。

所在地 東京都東村山市青葉町 4-1-1
電話番号 042-395-1101
診療科目 内科、外科、整形外科、眼科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、皮膚科、リハビリテーション科、放射線科、精神科、歯科



東海

国立療養所

駿河療養所 静岡



当施設は、東海北陸地区では唯一の国立ハンセン病療養所として、世界遺産・富士山を眺望できる箱根外輪山の標高500メートルの地にあります。昭和20年にハンセン病を発症した傷痍軍人の療養所として設立され、終戦後に一般のハンセン病患者のための国立施設となりました。東京ドーム8個分の敷地の中には、外来・病棟の医療施設、入所者住居・医療ケア施設、入所者サービス部門、ハンセン病資料室、講堂、礼拝堂、教会、神社、保育所、公園などがあり、所外からの訪問・見学・研修者が利用できる研修・宿泊施設もあり、毎年多くの方が利用されています。入所者数が減少していく中で、入所者のみならず地元にも貢献していくため、地域住民・医療関係者からの求めに応じ、平成27年10月に病棟・外来を一般患者に開放しました。富士山、箱根などの観光地を背景にした国立駿河療養所で、志を同じくして医療やケアを行う仲間を歓迎します。

所在地 静岡県御殿場市神山 1915
電話番号 0550-87-1711
診療科目 内科、外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科



中国・四国

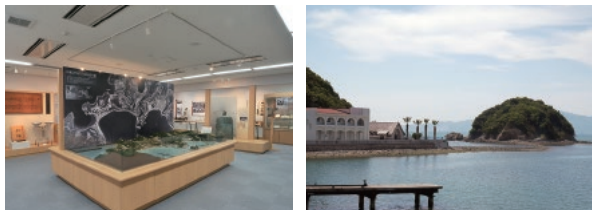
国立療養所

長島愛生園 岡山



当園は岡山県南東部瀬戸内海に浮かぶ東西16kmの細長い島に位置し、南に小豆島を望み温かな気候で自然環境に恵まれております。かつては船で瀬戸内海を渡っての来園だったものの、昭和63年の邑久長島大橋が開通し、本土との交通網が整備されると同時に、島内道路の整備や路線バスの乗り入れるようになったことで、交通の便は飛躍的によくなりました。当園では、入所者の方々の病気の治療と生活のお世話をすることが当園の役目だと考えており、入所者一人ひとりの幸福と福祉のために医療と看護、介護によって最善をつくすよう、高齢化に伴う老人性疾患の治療を中心に、よりよい医療の提供を心がけております。当園は日本初の国立療養所として昭和5年に誕生し、今でもその当時の建物が園内に点在しており、歴史の一端に触れる事ができます。歴史ある長島愛生園にぜひ一度見学にいらしてください。

所在地 岡山県瀬戸内市邑久町虫明 6539
電話番号 0869-25-0321
診療科目 内科、外科、整形外科、眼科、循環器科、耳鼻咽喉科、皮膚科、麻酔科、精神科、歯科



国立療養所

邑久光明園 岡山



当園の前身である外島保養院は、明治42年に大阪府に設置されましたが、昭和9年に室戸台風の直撃を受け壊滅し、多くの犠牲者を出しました。近隣地域での復興は住民の反対により断念し、故郷から遠く離れたこの長島が選ばれました。入所者は療養所で人生の大半を過ごし、今まさに最後の大事な時間を過ごされています。入所者に「生きていてよかった」と感じて頂けるよう、一般病院と遜色の無い医療や、後遺症に応じたきめ細かいケアはもちろん、入所者一人ひとりが最期まで自分らしく生きられるようなサポートに努めています。また、入所者は、厳しい隔離政策の中を生き抜かれ、自治組織を結成し、らい予防法を廃止させたり、裁判を通して隔離政策の誤りや国の責任を明らかにするなど、自らの手で権利を回復してきました。こうした生きざまは私たちに人間の尊厳とは何かを問いかけているように思います。ぜひ邑久光明園で勤務することの魅力を実感されることを願っています。

所在地 岡山県瀬戸内市邑久町虫明 6253
電話番号 0869-25-0011
診療科目 内科、外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科



国立療養所

大島青松園 香川



当園は、高松港北東の瀬戸内海に浮かぶ白浜青松に囲まれた小島「大島」にあります。高松港から官用船が、庵治港から通勤船として民間委託船が運行していて、約20分で大島に着きます。入所者はセンターとよんでいる居住棟のそれぞれのお部屋で生活されており、医療の主体もセンターで行っていて、在宅医療に近いイメージです。ハンセン病の後遺症治療やケアと一般診療を行っており、離島のため救急搬送には高松市の救急艇を依頼します。全職員で入所者一人ひとりの生活を見守り、寄り添うことを心がけながら、他職種で協力し知恵を出し合い、個別なニーズに細やかに対応しています。また、大島は瀬戸内国際芸術祭の会場の一つになっているため、開催中には多くの人が訪れ、アートを通して交流や啓発活動が行われています。仕事をとおして入所者の人生や人格に触れ、人として大切なことを学ぶことができます。当園に興味をもっていたいただいた方は見学にいらしてください。

所在地 香川県高松市庵治町 6034-1
電話番号 087-871-3131
診療科目 内科、外科、整形外科、形成外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科



九州

国立療養所

菊池恵楓園 熊本



当園は熊本県の北部に位置する合志市にあり、熊本市の中心部より約12km、熊本電鉄御代志駅が目の前という至便な立地です。過去に隔離されていた関係で昔から園内包括ケアシステムが完成しています。高度医療の必要な入所者は他医療機関に紹介しているため、概ね二次救急程度の急性期対応も出来る慢性期あるいは高齢者医療を行っている療養型の病院です。そのため、ほぼ定時の勤務が可能で、ワークライフバランスへの配慮も十分できるため、産休・育休をとった医師や趣味の書道や音楽活動などを行っている医師もいます。園内に社会福祉法人のこども園も誘致運営しており、社会開放も進めています。在院日数や保険診療に縛られたくない患者中心の医療を望んでおられる医師、ハンセン病療養所やその歴史、高齢者医療や終末期医療、ハンセン病後遺症などに興味のある医師はまずは一度見学に来てください。

所在地 熊本県合志市栄 3796
電話番号 096-248-1131
診療科目 内科、外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、精神科、歯科



国立療養所

星塚敬愛園 鹿児島



当園は、鹿児島県大隅半島の中心部・鹿屋市の市街地から約8km南に位置し、周囲はのどかな農地に囲まれています。園名の「星塚」とは、当地が「星塚っ原」と呼ばれていたことから、「敬愛」は西郷隆盛の「敬天愛人」に由来し、理念は「おだやかで やすらぎのある ほしづか」です。家族や社会から引き離され、これまで長期間に及ぶ療養所生活を余儀なくされた入所者の方々ですが、それでも「敬愛園で生活してよかった」、「あなたに会えてよかった」と思っていただけに、職員ひとり一人、日々の業務に努めています。平均年齢90歳という超高齢者施設ですが、ここには医療の原点があります。ハンセン病の後遺症以外に、加齢による心身の衰えを抱える入所者の方々への医療の提供は、まさに全人的医療と言えると考えます。当園では周囲に左右されずに自分のペースにあった診療業務が可能であり、ワークライフバランスもしっかりと確保されています。ぜひ、私たちと一緒に働きませんか。

所在地 鹿児島県鹿屋市星塚町 4204
電話番号 0994-49-2500
診療科目 内科、消化器内科、外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科、口腔外科、病理診断科



国立療養所

奄美和光園 鹿児島



当園は、全国13施設ある国立ハンセン病療養所の中で、入所者が一番少ない施設です。市の中心部から車で5分の距離となっており、敷地は周囲を山で囲まれ、野鳥が飛び交い、奄美固有の木々が花を付けるなど豊かな自然が残っています。地域医療として皮膚科診療を行い、他の医療機関との関係も良好で、園内で急患や重症・難治性疾患等の発生した場合には、後方病院へスムーズに紹介することができます。安心して診療活動に専念できる環境が整っています。職員は療養所の中で入所者と一緒に時を過ごすという感覚で仕事をしています。病棟医療、在宅医療の他に介護施設での医療等、現在の日本社会で行われている医療が混在しており、規模は小さいですが、自分が理想とする医療を模索することができます。奄美群島出身でそろそろ島に帰りたいと思っている先生、離島医療に興味を持っている先生方の応募をお待ちしています。

所在地 鹿児島県奄美市名瀬和光町 1700
電話番号 0997-52-6311
診療科目 内科、外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科



沖縄

国立療養所

沖縄愛楽園 沖縄



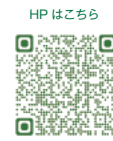
当園は、沖縄本島の北東方向、沖縄海岸国定公園の景勝地「羽地内海」に浮かぶ周囲約16km屋我地島北端に位置し、恵まれた自然環境の中にあり、療養に最適な場所で入所者が生活をおくっています。当園の基本理念は、「入所者・高齢者が安心して生活できる場の提供」です。この理念を成し遂げるため、私たちは、医療職・事務職に関わらず、全職員あがて「ライフサポート～ここ豊かな人生を応援する～」に取り組んでいます。沖縄では、お年寄りを大切にする文化があり、88歳のトーカチ、97歳のカジマヤーの長寿をお祝いは特に盛んです。入所者の誰もがトーカチはあたりまえ、笑顔でカジマヤー長寿を喜びあえるために、あなたもチーム愛楽園の一員になってみませんか？青い海白い砂浜そして夜は満天の星空、ここにはあなたがいたく沖縄の風景があり、ゆったりとした時間の流れがあります。是非一度、沖縄愛楽園にお越しください。

所在地 沖縄県名護市字済井出 1192
電話番号 0980-52-8331
診療科目 内科、外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、精神科、歯科



国立療養所

宮古南静園 沖縄



当園は、宮古島北東部にある最南端の国立ハンセン病療養所です。東側には東シナ海が広がっており、沖の方にはリーフに打ち付けて白く砕ける波が見られます。また、ベランダの直下に浜を見下ろすことができ、砂浜近くに時々遊びに来るウミガメを見ることができます。入所者にとって当園は生活の場でもあり、療養の場でもあります。以前は海で漁をしたりして生活を営んでおられましたが、高齢化が進んだために今では海に出掛ける入所者はいません。その代わりにグラウンドゴルフや室内でソフトバレーボールや輪投げに興じたりして、日々楽しく過ごしておられます。時には園外の医療施設の受診が必要なこともありますが、園内での治療を希望されることが多いため、園内完結型の医療を提供できるように努めています。入所者に生きがいを持って生活してもらうことに貢献していただける意欲がある医師を募集しております。

所在地 沖縄県宮古島市平良字島尻 888
電話番号 0980-72-5321
診療科目 内科、外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科



国立ハンセン病療養所
施設見学

国立ハンセン病療養所での勤務に関心のある医師の方々に対して、施設を実際に見学し、入所者が必要とする医療の内容やハンセン病等の歴史的背景、へき地・離島ならではの地域の特性などをみていただく機会を設けています。

見学は、勤務に関心のある医師一人からでも受け入れており、ご本人及びその家族の旅費を各療養所にて負担しております。

皆さまのご希望を伺った上で、日程及び行程等を調整します。

詳しくは、見学希望先の各療養所に直接お問い合わせください。

過去の見学例

- 星塚敬愛園（鹿児島県鹿屋市）
- 1日目：鹿屋市内のホテルにて星塚敬愛園園長と懇談
- 2日目：星塚敬愛園にて施設の概況説明及び施設見学
- 3日目：鹿屋市内見学

見学希望、採用状況のご確認については

各療養所へ直接お問い合わせください

連絡先は当パンフレット「国立ハンセン病療養所 施設紹介」をご覧ください。

